

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもサポート教室「きらり」袋井校		
○保護者評価実施期間	2025年 11月 21日 ～ 2025年 12月 17日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 26
○従業者評価実施期間	2025年 12月 12日 ～ 2025年 12月 18日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 1月 5日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員が専門性を活かして個別に児の表れに対応することができる。	各利用児ごとに個室を用意して、集中して課題を行うことができるよう配慮することで、それぞれの児の抱える課題に対応することができる。また、同時刻の利用児の年齢を揃えることで、お楽しみ時や小集団活動で広い空間を共有し、粗大運動等を行うことができるように工夫している。	更に低年齢時から成長に不安を抱える保護者へ寄り添い、安心して楽しく子育てを行っていただけるよう職員の専門性を高め、また安心して楽しく過ごせる環境作りを工夫したい。
2	送迎を家族へお願いしているため、保護者支援が常に行える。	来所された際に保護者へ声掛けして近況の把握に努めるとともに、必要に応じて支援見学や個別の相談支援も対応できている。	支援場面の見学を定期的に声掛けして、実際の支援の様子を見ながら成長を確認していただいたり、また同時刻の保護者同士が会話できる環境作り、保護者会への参加で放課後等デイサービスの保護者との交流などで今後の成長へ思いを馳せたりすることで現在の不安の解消に役立つよう働きかけたい。
3	児童発達支援から放課後等デイサービスへの移行が同事業所内でスムーズに行える。	年長児には小集団活動で「学校ごっこ」を行い、学習機を使用して数人で一斉指示を聞き、行動する経験を積み、就学への期待感を醸成することができるよう働きかけている。	児童発達支援から放課後等デイサービスへ、個別から小集団活動へと社会性を高めていけるよう更に働きかけたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	小集団活動以上の人数での活動が難しい。	個別支援を前提として、利用児の曜日・時間を配分しているため、職員数以上の利用を呼びかけることが難しい。	近隣の「きらり」校舎と合同にて活動を行うことで、多くの同時刻利用児と交流することができる。
2	外活動を行うことが難しい。	近隣の公園まで移動して戸外活動を行うことも検討できるが、当日の天候・利用児の健康状態・道中の安全への配慮等、必要なことが多く、また時間の制約もあり実現が難しい。	利用時間の延長や、外活動を事前に計画へ組み込むことで、保護者からの了解を得たり職員間の動線の確認を行ったりすることができる。
3	調理等の食育を行うことが難しい。	事業所に調理場所の確保や道具・用具の準備が無いこと、食品衛生責任者が不在であるなどの問題点がある。	野菜を使用した制作等を取り入れているが、今後事業所で使用できる調理場所、用具の選定を行い少人数で行えるよう検討したい。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 こどもサポート教室「きらり」袋井校

公表日 2026 年 2 月 14 日

利用児童数 27

回収数 26

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	26	0	0	0	子どもが楽しそうに遊べてるのでいいと思う。	ありがとうございます。今後も楽しく活動し力を伸ばしていただけるよう支援します。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	26	0	0	0	いつも送り迎えで人が出てきて下さるので安心します。	施設・開錠のため職員が対応します。担当が玄関でお待ちしております。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	2	0	2	全部の部屋をしっかりと見ることがないで。設備に関してはあまり室内へ入らないので分からない。	体験時にお子さんへ室内を案内していますが保護者の方にもご案内するようにします。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	25	1	0	0	トイレの臭いが気になる。設備に関してはあまり室内へ入らないので分からない。	清掃の徹底と臭い対策を行いました。支援室へ保護者の方にも入っていただくように月に1回はお声掛けをします。
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	24	2	0	0	子どもの段階に応じた支援が組まれていると思う。	アセスメントや発達段階について検討し、支援プログラムを組み立てています。今後も丁寧な説明に努めます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26	0	0	0		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	26	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	25	1	0	0	家族支援、移行支援がよく分かりません。	利用児支援だけでなく、ご家族の支援やライフステージの変化に伴う移行支援について、計画作成時にご説明しています。更に丁寧な説明を行います。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	26	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	25	1	0	0		活動プログラムは、一部固定化する必要がある場合もありますが、楽しんで取り組めるよう工夫しています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	19	3	2	2		地域で他のこどもと活動する機会は校舎外では無いですが、他園の児と同時刻利用で交流する機会は設定しています。
保護 者へ の 説 明 等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	26	0	0	0		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	26	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19	3	0	4	利用期間が短いめ分からないとしたが、このようなプログラム(特性のある子どもの声かけなど)があれば参加したい。研修会等の案内があったかどうか分からない。	11月に掛川の2校舎と合同で保護者会を行いました。26年2月には校舎で保護者会を開催のためご参加ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	25	1	0	0	いつも助けられています。発達状況に関して理解できていると思う。	普段の様子について、お声掛けして伝えていただけるよう努めています。発達状況は職員とも情報共有しています。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	4	0	1	活動内容の報告は受けるが面談や助言はあまり機会がなかったと思う。	年2回のモニタリングで聞き取りや助言を行います。困りごと等は面談でご相談を承ります。お気軽に声掛けください。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	26	0	0	0		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	17	5	0	4	同じような特性のお子さんを育てている保護者の方との交流の場があれば参加したい。	11月に掛川の2校舎と合同で保護者会を行いました。26年2月には校舎で保護者会を開催のためご参加ください。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	25	1	0	0		相談窓口は職員誰でもとお伝えしています。児発管の対応をご希望の場合もお声掛けいただけるようお伝えしています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23	3	0	0	配慮がなされていると言われるとどちらでもない印象	月末には、各支援室に保護者の方も入室していただき、普段にも増してよりじっくり申し送りをしたいと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	25	0	0	1		HPへブログ・保護者へLINE・Instagramと月に数回は支援の様子がわかるように情報発信しています。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	24	1	0	1		書類等の受け渡しは確認を確実にしています。事務所内の個人ファイルやPC画面は他者の目に触れないよう配慮します。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	24	0	0	2		契約時の説明や玄関での掲示・閲覧をしています。更に周知を図るため丁寧な説明に努めます。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20	1	0	5		毎月、内容を変えて利用児も参加して訓練を行い、その様子を校舎で掲示・ブログ・保護者LINEでお伝えしています。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	24	0	0	2		利用児の安全を確保するため、支援室内の安全や教材・玩具の安全確認を複数の職員で行った上で支援をしています。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	24	0	0	2		軽いけがであってもすぐに対応を行い保護者の方へお伝えしています。職員で情報共有して再発防止に努めています。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	26	0	0	0	毎回楽しみにしています。	ありがとうございます。安心して活動していただけるよう今後も努めてまいります。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	26	0	0	0	駐車場についたら、早く入りたいという雰囲気です。二コ二コしています。毎回楽しみにしています。	ありがとうございます。活動を楽しみにしていただけるように、職員一同今後も努めてまいります。
	29	事業所の支援に満足していますか。	26	0	0	0	毎回楽しみにしています。	ありがとうございます。お子さんにも保護者の方にも、今後も満足していただけるよう職員一同、努めてまいります。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
こどもサポート教室「きらり」袋井校		2026年 2月 14日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		個室で分け、支援が受けられる環境を設定している。利用者が多い場合は大部屋をパーティションで仕切っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		利用定員は最大4、5名にしており1対1で支援するよう調整している。職員の急な休みに対応できる体制のため安心して働ける。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		申し送りを待つ場所を視覚的・構造的に工夫し利用児に待ち方が理解され落ち着いて待つ児が増えた。玄関にスロープを設置。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃・消毒・加湿・安全点検等を実施。定期的に教材の配置を変更。朝の清掃は空き枠時間での清掃に変更ができています。	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		利用者に応じて基本は個別の部屋を使用。人数によって大部屋を仕切っている。	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		朝礼と終礼を必ず実施しており業務改善の話し合いもできている。営業時間変更に伴い、清掃時間が確保できるよう調整した。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎年保護者向けと職員の評価表の結果を、業務改善に繋げている。	
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		職員の異動があり、様々な意見交換をし業務ができた。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		現在、第三者による外部評価については全社で検討中のため未実施。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法定研修に加えて、発達支援研究所の研修や職員研修等、ZOOMにて年間を通じて日程が組まれている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		利用者にもわかりやすいように、活動の絵を入れ支援プログラムを作成している。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		アセスメントの分析や必要に応じて発達検査や知能検査も行い、個別支援計画を作成している。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		モニタリング作成の仕方など各職員の考えが伝えられる環境と感じる。複数の職員が利用児に関わり意見交換できる。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		利用児ごとの支援ファイルへ常に更新された個別支援計画のコピーが入れられて、支援準備時に参照できるようになっている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		NCプログラムを活用している。	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		個別支援計画に「本人支援（5領域）」と「家族支援」「移行支援」「地域支援」のそれぞれの「課題」「目標」「支援内容」が明記され、専門的支援実施計画で更に具体的な支援内容が設定されている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		個別支援をチームで行っているため、活動プログラムについてもチーム内で検討して変更・継続等を判断して支援している。	

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		一部、固定化する時は楽しめるよう工夫している。児それぞれの発達に合わせて毎月活動内容を検討している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		児発比率が上がり、活動目標を設定して小集団活動が行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		利用児の特性を考慮しどう支援するかを話し合っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		時短勤務で打ち合わせに参加できない職員は都度、必要な情報を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		今回の支援に引き継ぎたい内容は、記録の他にファイルにメモ書きや担当に口頭で伝達している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		指導員モニタリングを定期的に行い、また保護者モニタリングの内容も共有して、支援計画を見直している。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		相談支援事業所のサービス担当者会議は行われていないが、関係機関との会議は園訪問の際に担当職員が同席して行っている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		協力医とは連携して、市内の児童の現状の共有や事業所の様子のお伝えなどを定期的に行っている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		児発の利用児は集団放デイへ移行できるよう働きかけている。利用児の園訪問で「きらり」の支援内容について情報共有と園での様子を見学し、相互理解に努めている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学時の移行は特別支援学校とは面談で情報共有し小学校へは保護者へサポートブックを作成し担任と共有を働きかけている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		市の早期療育支援センターと連携して、利用児の様子を見学するなど情報の共有に努めている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○	職員が園訪問をし、事業所内では同時刻の他園の児同士が交流する機会を作っている。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		支援終了時に毎回、保護者への申し送りを行い、発達の状況や課題のお伝えや保護者の考えを伺うなど共通理解を図っている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者モニタリングの際に家庭での関わりを助言、また保護者会で情報提供や発達支援研究所の講演会の案内等を掲示している。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に丁寧な説明と質問を受け付け、また玄関に閲覧ファイルを作成して設置している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別支援計画を更新する際には、保護者へ丁寧な説明とともに内容へ追加希望があるかを必ず確認して本計画を作成している。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		個別支援計画を作成する際には、支援内容を丁寧に説明し、保護者の意向を確認した上で同意のサインをいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者モニタリングの際に家庭での関わりについて悩みの相談を受け、必要な助言を行い、更に事業所内相談も行っている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		11月に掛川校・掛川第2校と合同で保護者会を行った。保護者同士の交流の場を設けているがきょうだい児の交流までは行っていない。	
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		来所時に保護者から子育ての悩みや相談等を児発管が受け、そのまま不安感の解消の手助けや対応を助言する場合が多い。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		HPへブログ・保護者へLINE・Instagramと月に数回は支援の様子がわかるように情報発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報事は事務所内で鍵付きの書庫へ保管している。事務所内で利用児名が見える状態で放置しない等を申し合わせている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		利用児の特性に配慮しプログラムを絵カードで提示、絵付きのプログラムを作成、現物を提示する等の工夫をしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	不審者対策の防災訓練に市のスクールサポーターを講師としてお願いした。事業所の活動内容はSNSで公開できている。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルを策定し、職員全員に周知し、事業所玄関にて閲覧できるようにし、発生を想定した訓練を実施している。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画を策定し、非常災害の発生に備え、定期的に避難訓練を利用児も参加して実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		利用開始時と毎年度ごとに基本情報を保護者へ記入をお願いし、その中で服薬やてんかん発作等の状況を確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食事の提供は行っていない。 小麦粉粘土・牛乳パックの使用に注意している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成して、必要な研修や訓練を受け、また安全管理が十分にされた空間で支援を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の対応については契約時に別紙で対応保護者へ説明し保管をお願いしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット報告書を作成し、上長へ報告し事業所内で検討して再発防止に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止のため、毎月職員全員でチェックシートにて振り返りを行い、研修に参加して常に適切な対応を行うようにしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		やむを得ず身体拘束を行う場合事業所全体でどのような場合にどう行うかを決定し、保護者へ事前に説明、了解を得ている。	